

2022年FIA-F4選手権シリーズ
HFDP参加選手レポート
第5大会（第9戦／第10戦） 参戦レポート

9月17日（土）～18日（日）、スポーツランドSUGO（宮城県）で2022年FIA-F4選手権シリーズ第5大会（第9戦、第10戦）が開催されました。HFDP(Hondaフォーミュラ・ドリーム・プロジェクト)からは#5小出峻（1999年10月26日生まれ。22歳）、#6西村和真（1999年7月21日生まれ。23歳）、#7三井優介（2002年4月22日生まれ。20歳）の3人が参戦しました。

小出が優勝、三井はポイントリーダーへ

■公式予選（20分間+20分間）：天候/晴れ 路面/ドライ

薄曇りの蒸し暑い中、出走車両をA組、B組の2グループに分け、午前8時10分から公式予選がドライコンディションでA組セッションから始まりました。ベストタイムで第9戦、セカンドベストタイムで第10戦のスターティンググリッドが決まる規則です。



A組にはポイントリーダーの#7 三井と#6 西村が出走しました。HFDPの3台は前日までの練習走行セッションでタイムが伸びず苦しんでいましたが、#6 三井がまず1分25秒873でトップタイムを記録、これを巡ってタイムアタック合戦が始まりました。

タイヤのウォームアップができた計測4周目、#6 三井はタイムを1分24秒485へ縮めてトップを奪い返すと、タイヤを温存するためセッションを3分残してピットに戻りました。結局このタイムを更新する選手は現れず、#6 三井はA組トップのままセッションを終えました。練習走行からタイムが伸びず苦しんでいた#7 西村もA組4番手のタイムを記録しました。

午前8時45分、B組の公式予選が始まりました。#5 小出は先頭を切ってコースイン、タイヤが暖まり始めた計測2周目に1分25秒770を記録してトップに立つと、このタイムを巡ってタイムアタック合戦が始まりました。#5 小出は計測3周目に1分24秒571を記録してトップを守り、さらに次の周、1分24秒378へラップタイムを縮めました。



ここでコース上の停止車両を排除するため赤旗が提示されセッションが一時中断され、9時1分に残り4分で計測が再開されました。しかしその時点でトップタイムを記録していた#5 小出はピットに留まり、トップのままセッションを終えました。

この結果、A組でベストタイムを記録した#5 小出は第9戦のポールポジション、第10戦のスターティンググリッド3番手、#7 三井は第9戦のスターティンググリッド2番手、第10戦のスターティンググリッド4番手、#6 西村は第9戦、第10戦ともスターティンググリッド8番手から決勝

レースに臨むこととなりました。

【第9戦スターティンググリッド】

1番手 #5 小出 峻 1分24秒378
2番手 #7 三井 優介 1分24秒485
8番手 #6 西村 和真 1分24秒854

【第10戦スターティンググリッド】

3番手 #5 小出 峻 1分24秒571
4番手 #7 三井 優介 1分24秒652
8番手 #6 西村 和真 1分24秒905

■第9戦決勝レース（17周）：天候/曇り 路面/ドライ



公式予選が終わった午後1時30分、曇り空の下、第9戦決勝がフォーメーションラップから始まりました。路面は引き続きドライコンディション。

スタート合図と共にポールポジションの#5 小出峻は加速してイン側2番手からスタートした#7 三井を牽制し、トップを守って1コーナーへ飛び込みました。これに#6 三井が2番手で続き、#6 西村は前方選手がオーバーランした際に7番手へポジションを上げました。

トップに立った#5 小出は快調にトップを走りましたが、2番手の#7 三井のペースは上がらず、3番手の#37 中村仁選手が迫って苦しい展開となりました。2周目、最終コーナーから#37 中村選手が#7 三井のスリップストリームに入りホームストレート上でアウトから並びかけると、3コーナーでインに入って2番手に抜け出しました。3番手へポジションを落とした#7 三井はその後ペースが上がらず後方からの追い上げにさらされました。

#5 小出は快調にトップを走っていましたが6周目、コース上の停止車両を排除するためセーフティーカーが介入、11周目にレースが再開しました。ここでも#5 小出はうまくリスタートし2番手を引き離してトップの座を守りました。一方#7 三井は後続の#36 小林利徠斗選手に攻め寄せられ、11周目の4コーナーでオーバーテイクを許して4番手へ後退しました。

トップの#5 小出は、セーフティーカーで一旦縮まった2番手との間隔を再びじりじりと広げていきました。一方4番手の#7 三井は後続車から攻め寄せられ防戦を強いられました。結局このまま17週のレースは終わり、#5 小出は第6戦以来の優勝を飾りました。#5 三井は4番手を守ってチェッカーフラッグを受け、#6 西村は混戦の中でポジションを9番手へ落としてレースを終えました。この時点で#5 小出はシリーズランキングで#7 三井を逆転し、ポイントリーダーとなりました。



【FIA-F4 選手権シリーズ第9戦・レース結果】

#5 小出 峻 決勝1位 (27分53秒692 ベストタイム 1分25秒327)
#7 三井 優介 決勝4位 (27分58秒117 ベストタイム 1分25秒530)
#6 西村 和真 決勝9位 (28分01秒296 ベストタイム 1分25秒915)

■第10戦決勝レース（17周）：天候/曇り 路面/ドライ



日曜のスポーツランド SUGO は朝から晴れとなり、午前9時から第10戦決勝が行われました。

午前9時04分、スタート合図が下されると、4番手スタートの#7 三井が3番手スタートの#5 小出のインに飛び込み、1コーナーから2コーナーにかけてコンパクトに方向を変えて順位を入れ替え3番手へ進出しました。しかし#5 小出は落ちていて#7 三井の背後に付き、馬の背コーナーのブレーキングでインに飛び込んで3番手のポジションを取り戻しました。

ところがオープニングラップで後方選手がアクシデントを起こしたためセーフティカーが介入、セーフティカーランが始まりました。セーフティカーランは6周終了時まで続き、レースは7周目から再開されました。リスタートで#5 小出は2番手を走る#37 中村選手のスリップストリームに入りホームストレートで追いつくとオーバーテイクに成功、2番手へ順位を上げ、さらにトップを走る#36 小林選手が馬の背でオーバーランした隙にトップへ抜け出しました。しかしリスタート時、#5 小出がコントロールライン前で#37 中村選手をオーバーテイクしたとして審議が始まり、結局トップに立って2番手を引き離し始めた#5 小出にはドライブスルーペナルティが下されてしまいました。



この結果、#5 小出はペナルティを消化してポイント圏外へ後退し、11周目の段階でトップには#37 中村選手、2番手には#7 三井が繰り上がりました。#7 三井はペースが上がり切らず後続に攻め寄せられる場面もありましたが良く耐え、2番手のポジションを守ったまま17周を走り切りチェッカーフラッグを受けました。#6 西村は8位でレースを終え、#7 三井と共に選手権ポイントを獲得しましたが、#5 小出は26位へ順位を落とし無得点に終わりました。

2位に入賞した#7 三井はシリーズポイントを192点に伸ばして#5 小出を逆転、再びランキング首位に立ちました。#5 小出は6点差の2番手に続き、#6 西村は46点でランキング8番手となりました。また HFDP は開幕以来9連勝を記録、チーム部門で2番手に97点差の243点でトップを守りました。

【FIA-F4 選手権シリーズ第10戦・レース結果】

#7 三井 優介 決勝2位 (30分23秒884 ベストタイム 1分25秒308)
#6 西村 和真 決勝8位 (30分31秒499 ベストタイム 1分25秒553)
#5 小出 峻 決勝26位 (30分50秒617 ベストタイム 1分25秒205)
(#5は、SC リスタート違反によりドライブスルーペナルティが科された)

■2022FIA-F4 選手権シリーズポイントドライバーランキング（2022シーズン第10戦終了時点）

1番手 #7 三井 優介 192点
2番手 #5 小出 峻 186点

8 番手 #6 西村 和真 46 点

(1 位 25 点、2 位 18 点、3 位 15 点、4 位 12 点、5 位 10 点、6 位 8 点、7 位 6 点、8 位 4 点、9 位 2 点、10 位 1 点)

■2022FIA-F4 選手権シリーズポイントチームランキング (2022 シーズン第 10 戦終了時点)

1 番手 HFDP 243 点

(各チーム最上位のみ計上)

●ドライバーズコメント：#5 HFDP RACING TEAM 小出峻

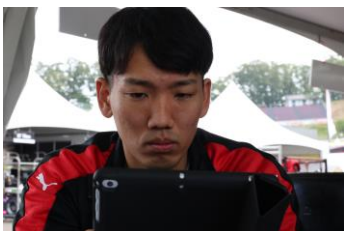


第9戦の決勝は良い形で終わることができましたが、第10戦では、正直自分はまだ未熟者で、トップのドライバーのレベルではないということを知りました。ペナルティは、リスタートに合わせて、良い感じでタイミングが合ったら、追いついてしまい、これ



これではいけないと思っている間に追い抜いてしまったという感じです。ものすごく良い感じで合わせられて、あ、これは抜ける、という期待感が先立ってしまい、コントロールラインまでで抜いてはいけないという規則が頭から飛んでしまっていました。今週を通して速さはあったと思いますが、レースは速く走るのが目的でやるのではなくて1番前でチェッカーを受けることが目的なので、速いだけではダメ。速く走って楽しかったで終わってしまっただけでは意味がありません。チームが関わっていて僕1人でやっているわけではなく、みんなには結果を返さないと意味がないので、細かい部分でもミスしないようにしないといけません。ちょっとしたミスをしてしまうというところが、自分としてはまだまだだなと感じます。トップのドライバーたちは、細かい部分をどういう状況であってもしっかりと決めて、しっかり結果を残しています。そういう点、今週は自分の未熟さを痛感しました。

●ドライバーズコメント：#6 HFDP RACING TEAM 西村和真



今までも良いと言われると良くはなかったですが、木曜金曜の練習は、ほんとに今までにないぐらい良くなって、10何番手とかというところから始めることになりました。でも色々対応をして、予選では4番手ではありましたが、木曜、金曜から考えたら進歩したのかなと思います。金曜の走行の最後の20分間ぐらいで色々試してみた中で、少し良い方向かなというものがあったので、それを予選で試したら多少ペースが上が

ったという感じです。ただ、1周をまとめきれませんでした。走行後、モニターを使ってセクタータイムを確かめると、やっぱり上位の選手は1周綺麗にセクターがベストベスト、と揃えているのに対し、僕はセクターによってタイムバラつくんです。その一貫性が必要だなと痛感しています。予選で1発をまとめる力や、決勝で混戦の中でポジションを落とすという点などが課題として残りました。



●ドライバーズコメント：#7 HFDP RACING TEAM 三井優介



木曜日の練習から調子があまり良くありませんでした。このコースをちゃんとしたドライ路面で走るのは木曜が初めてだったので、ドライビングの修正から入ったんですが、うまく修正ができないままマシンをセットアップして行ったら自分の修正とマシンの修正で自分の中がごちゃごちゃしてしまい、ペースを上げるのに時間がかかってしまいました。全体的にペースが悪いまま自分で納得のいく



走りができずに終わってしまったので、木金の練習の取り組み方、自分の走りの修正の遅さが最後まで尾を引いてしまったかなと思います。ただ、木金土日と徐々に上げることができて、成長はできたと思います。でも最初同ようなペースだった小出選手は、最終的にペースも良くなってトップに立つこともあったので、自分もそういうところに行けたはずだと考えると反省点があります。何が悪かったのかを研究して、次のオートポリスに向けて考えます。